

原木及び木材製品の流通に関する見通し調査(令和元年12月実施分)

1. 調査対象 道産針葉樹原木の消費量が概ね年間1千m3以上の製材工場及び合板工場(調査対象工場数:104)
2. 調査実施時期 令和元年12月
3. 調査の内容 (原料在庫状況)前年同時期と比べた認識について選択式(「多い」「少ない」「変わらない」)により調査
(製品の荷動き)前年同時期と比べた認識について選択式(「良い」「悪い」「変わらない」)により調査
4. 企業判断指数の算出方法
[(回答全体のうち「多い」「良い」と回答した企業の比率(%)) - (回答全体のうち「少ない」「悪い」と回答した企業の比率(%))]
(最大値100/最小値-100)
5. 調査結果(回答工場数:98社 / 回答率:94.2%)

【①原料在庫状況(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6
H31.3	-3	-27	-41	-	-	-
R1.6	-	5	-15	-32	-	-
R1.9	-	-	12	-4	-11	-
R元.12	-	-	-	-2	-12	-23

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)

	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6
当年	178,606	183,683	177,410	-	-	-
(前年)	166,125	165,671	160,285	146,052	178,606	183,683
対前年比	108%	111%	111%	-	-	-

(概況)
トドマツ原木在庫は前年を上回り不足感は緩和されているが、春以降に前年を下回ると回答した企業が多い。

(回答企業の主なコメント)
例年並み/全体として不足感はない/トラック手配で左右され先が見通せない/パルプ材が不足/原木不足は続く/入札価格高騰/前年より豊富/間伐で材の流通が増えている/3m、4m材が不足/過剰気味

【②製品の荷動き(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6
H31.3	-10	-12	-7	-	-	-
R1.6	-	-17	-17	-26	-	-
R1.9	-	-	-30	-39	-40	-
R元.12	-	-	-	-45	-53	-43

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)

	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6
当年	197,058	205,340	212,330	-	-	-
(前年)	190,366	210,344	205,404	224,597	197,058	205,340
対前年比	104%	98%	103%	-	-	-

(概況)
原木消費量から判断すると、トドマツの製品荷動きは前年並みで推移したものの、冬にかけて前年を下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)
新築少なくなりフォーム多く荷動き悪い/オリンピック以降の建築用材は厳しくなると予想/梱包・ラミ鈍い/11月より注文減少で不安が続く/受注オーバーで春以降不透明/棧木・魚函低調/公共・TPP関連施設が需要支える

【③原料在庫状況(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6
H31.3	-29	-47	-50	-	-	-
R1.6	-	-17	-41	-45	-	-
R1.9	-	-	-16	-16	-19	-
R元.12	-	-	-	-33	-33	-43

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)

	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6
当年	224,394	234,584	237,959	-	-	-
(前年)	180,409	192,395	179,587	166,827	224,394	234,584
対前年比	124%	122%	133%	-	-	-

(概況)
原木在庫は前年を上回っているが、不足感の続く地域もあり、今後も前年を下回ると回答した企業が多い。

(回答企業の主なコメント)
自社造材により調達は出来ている/チップやオガ粉用原木が不足気味/市町村有林の皆伐により昨年と同量確保/余裕ができる程の入荷はない/とにかく原木不足/製材注文減少により結果的に在庫が増加している

【④製品の荷動き(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6
H31.3	18	12	2	-	-	-
R1.6	-	2	-16	-19	-	-
R1.9	-	-	-34	-40	-45	-
R元.12	-	-	-	-63	-67	-52

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)

	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6
当年	262,626	282,191	276,138	-	-	-
(前年)	286,973	312,613	287,480	288,663	262,626	282,191
対前年比	92%	90%	96%	-	-	-

(概況)
原木消費量から判断すると、カラマツの荷動きは前年を下回っており、輸出関連の不安が目立ち、今後も大きく下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)
梱包・パレット低調/米中貿易摩擦の影響/名古屋方面激減/梱包材はリーマンショック時より受注悪い/SOX規制により製品価格実質値下げ/ラミ本州向け減少/原木不足のため荷動き低調/昨年並み需要だと原木枯渇